

26年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
入荷動向	国産材	0.0	△ 14.3	△ 14.3
	外材	△ 14.3	△ 28.6	△ 42.9
在庫動向	国産材	28.6	21.4	14.3
	外材	21.4	7.1	△ 7.1

国産材ラミナの入荷は7月の横ばいが8,9月は減少に、外材の入荷は減少傾向で推移。

国産材ラミナの在庫は増加傾向で推移、外材は、7,8月の増加が9月には減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
国産材	△ 7.1	△ 14.3	△ 7.1
欧州材	△ 28.6	△ 21.4	△ 14.3
その他	△ 50.0	0.0	0.0

国産材及び欧州材ラミナの購入価格は弱保合、ないしやや弱保合で推移、その他は7月の弱含みが8,9月は保合に。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・順調に入荷、在庫のピークを迎えている。・スギラミナは順調に入荷、前月とほぼ同様の在庫量。カラマツは6月中旬ころから入荷は順調、在庫量はやや増加。・6月は国産材の入荷しやすくなり、いつもより多く入った、7月以降も増加の見通し。外材の入荷は少なく在庫減。・在庫余剰のため仕入れ抑制。

(ラミナ価格動向)

・下落しているものもある。
・スギは7月以降、価格はやや下落傾向と見込む、カラマツは7月までは現状価格、8月以降は値下げ傾向と見込む。・第3Q(7,8,9月または8,9,10月)積みはユーロ単価が少し下落の見込み。・6月終わりから7月にかけて外材は下がると予想。国産材も下がらないと外材より高くなってしまう。

26年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
生産動向	国産材	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	WW集成管柱	△ 41.7	△ 25.0	△ 16.7
	RW集成平角	△ 25.0	△ 41.7	△ 25.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 35.7	△ 21.4	△ 7.1
	WW集成管柱	△ 25.0	△ 25.0	△ 8.3
	RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	△ 8.3
	米マツ集成平角	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—

国産材、WW管柱、RW平角及び米マツ平角の生産・出荷は共に減少傾向で推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
スギ集成管柱	△ 25.0	△ 16.7	△ 8.3
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	△ 16.7	△ 33.3	0.0
WW集成管柱	△ 16.7	△ 8.3	△ 8.3
RW集成平角	△ 25.0	△ 16.7	△ 16.7
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

スギ管柱、カラマツ土台、WW管柱、同平角及びRW平角の出荷価格は弱保合で推移、ヒノキ柱、同土台、米マツ平角及び米ヒバ土台は横ばい、カラマツ土台、同平角は7月の弱含みが9月に向け保合に。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・5月から生産調整を継続中。・ラミナを巡る環境が変わり、集荷難から一転、潤沢な状況になりつつある。一方、製品需要が急激に冷え込んできた。生産増強の環境は整ったが、増産分の販売が見込めず生産調整せざるを得ない。出荷は、7月に入り、製品需要の冷え込みが顕著に現れてきた。消費増税の反動減から総体の需要が減少している中、カラマツは価格面や供給面から樹種転換の動きが見られる。増産体制としたが、7月からスギ製材品を含む荷動きが悪く、ラミナ供給量が増加。他メーカーとの競争も激しくなり販路確保が難しくなっている。・国産材の生産が増え、外材の生産落ちる予定。全体的に集成材の動きは良くない。

(構造用集成材出荷価格動向)

・今月が底ではないか。
 ・スギは、6月同様原木・ラミナともに潤沢で価格も弱含み。製品はクォーター決めの顧客は6月に値下がり。それ以外の顧客は7月より値下げ要請が強く、販売量確保のため、やむを得ず応じる。しかし、荷動き鈍化から他メーカーの値下げ攻勢が強く思ったように売り切れない。カラマツはラミナ高止まりで、採算性悪く、値下げ出来る環境ではない。しかしながら、総体的な需要の冷え込みから競合製品の値下げが影響し、値下げ要請が強い。一部で値下げに応じるも、下げ幅の折り合いつかず交渉は難航している。8月には一層の値下げ要求は強く、本格的に価格は下落すると見込む。
 ・底値感出ているが、需給バランスは7~9月も変わらないと予想。・グループ内での消費のため、当社では今のところ価格は横ばい、。